

I. 名古屋短期大学全体の3ポリシーと学習成果

1. 学位授与の方針（ディプロマポリシー:DP）

名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。

DP1. 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。

DP2. 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている

DP3. 自らの持てる力を活かし、社会に貢献しようとする事ができる

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー:CP）

名古屋短期大学は、学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成します。

CP1. 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する

CP2. 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する

CP3. 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習、研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修において特に重要とされる科目を必修科目とする。

3. 入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー:AP）

名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の力や資質を備えていることを期待する。

AP1. 本学の建学の精神および教育理念に共感する人

AP2. 本学での学修に必要な基礎学力（知識・思考力・判断力・表現力）を持つ人

AP3. 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人

以上のような学生を受け入れるために、各種入試方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。

4. 名古屋短期大学全体の学習成果

学1 社会で必要とされる知識や技能を身につけ、自らの人生を切り開くことができる

学2 自らの能力を活かし、社会に貢献しようとする事ができる

学3 他者とともに協働しながら問題解決のために考え、意見を述べ、行動することができる

II. 各科の3ポリシーと学習成果について

1. 保育科

①ディプロマ・ポリシー

保育者としての高度な専門性を備え、自己実現を成し遂げていくことで、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる有為な人材となるよう、次の知識・技能・態度を修得した者に卒業を認定し、短期大学士を授与します。

HDP 1. 保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を有し、自己実現を成し遂げながら、人類の福祉と子どもの最善の利益のために積極的に社会に参加し、問題を解決することができる。（理論的・実践的な問題解決能力を有する者）

HDP 2. 保育と子育てに関する高度な専門的知識と実践的スキルを修得するとともに、将来にわたり保育学に興味・関心を持ち続ける。（高度で実践的な保育と子育ての専門家）

HDP 3. 国際的な視野をもち、子どもの教育・福祉・心理・文化の分野など多面的かつ深い理解を有する者として、地域に根ざした社会的発展に貢献することができる。（国際的な視野で地域社会に貢献できる者）

②カリキュラム・ポリシー

人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる有為な保育者の養成を目指して、次の点を重視して教育課程を編成しています。

HCP 1. 多様な学習要求をもった学生の自己実現の課題に応え、能動的で自己啓発的な学習主体として、豊かな問題発見・解決能力と社会参加の意識の高い保育者を養成します。

HCP 2. 高度の専門性を備え、現代的な課題に応えられる保育者を養成します。

HCP 3. 保育の実践と結びついた研究と教育の充実・発展を通して、地域社会の要請に応えつつ保育の社会的発展に貢献できる保育者を養成します。

③アドミッション・ポリシー

保育に関する教育・研究を通して保育者をめざす学生の高度な専門性の修得と自己実現を支援し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる有為な保育者を養成することを目指しています。

<保育科の求める学生像>

HAP 1. 保育者になりたいという意志が明確で、そのために真剣に努力できる人

HAP 2. 保育者に求められる適性を備えており、それをさらに伸ばそうとする意欲がある人

HAP 3. 子どもとその福祉に幅広い関心をもち、そのための学びと実践の意志をもっている人

④保育科の学習成果

1. 保育と子育てに関して理論的・実践的に問題を解決するために必要な基礎的な知識

- ・技能を身につけることができる。（基礎的な知識・技能）
- 2. 保育と子育てに関する諸問題を解決するための思考力・判断力・表現力等の能力を身につけることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- 3. 国際、地域、教育、福祉、心理、芸術など多様な分野で、さまざまな人々と協働して主体的に課題に取り組むことができる。（主体性・多様性・協働性）

2. 英語コミュニケーション学科

①ディプロマ・ポリシー

英語コミュニケーション学科では、所定の単位を取得して下記に示す力を獲得した学生に対し、短期大学士(英語)の学位を授与します。

EDP 1. 英語によるコミュニケーション能力の習得に励み成果を挙げた者

EDP 2. 国際化が進む現代社会でのさまざまな問題に適切に対応できる思考力、判断力、表現力を身につけた者

EDP 3. 社会において多様な人々と主体的に協働することができる態度や力を身につけた者

②カリキュラム・ポリシー

英語のコミュニケーション能力の基礎となる「話す、聞く、読む、書く」の4技能をバランスよく身につけると同時に、幅広い教養と豊かな感性を持ち、グローバル化した社会でのさまざまな問題に適切に対応し、活躍していくことのできる思考力、判断力、表現力を備えた人間を育成することを教育目標としています。

ECP 1. 基礎教育科目群では、短期大学における専門教育科目を学ぶ上で大切な学習基礎力を高める。

ECP 2. 専門教育科目群のうち、英語力強化のための演習・実習科目では、資格取得や卒業後の進路選択に活かすことができる英語力習得をめざすとともに、その背景にある異文化を学ぶことによりグローバル化した社会で多様な人々と協働する力を養う。また、4ヶ月または4週間の海外留学プログラムも、実践的英語運用能力の習得はもちろんだが、異文化に身を置く中で、自ら思考し、判断し、表現する力を養い、人間的な成長につながるものである。

ECP 3. 専門教育科目群のうち、幅広い教養を身につけるための専門科目では、自分の興味関心をさらに追求し、信念ある女性として様々な分野で社会に貢献し、活躍していくための基礎的な力を身につける。特に女性としてのキャリア形成を深める科目は、建学の精神を反映したものである。

ECP 4. 学外で社会の人々と交流しながら主体的に自らの可能性を探求するとともに、実践的な知識や技能、経験を得るために、国内、海外のインターンシップを置く。

③アドミッション・ポリシー

名古屋短期大学英語コミュニケーション学科は、英語によるコミュニケーション能力の育成とともに、幅広い教養と豊かな感性を持って国際社会や地域社会に貢献できる人材を

育成することを教育目標にしています。

＜英語コミュニケーション学科の求める学生像＞

EAP 1. 英語によるコミュニケーションに興味・関心があり自ら学ぼうとする学習意欲のある人

EAP 2. 英語圏の生活・文化・交流について、幅広い興味と関心を持っている人

EAP 3. 異文化圏の人々との関わりを通じて視野を広げ、思考力、判断力を養いたい人

EAP 4. グローバルな現代社会・企業社会において多様な人々と協働しながら自己の能力を発揮したいと思っている人

EAP 5. 英語を教えることに興味・関心がある人

EAP 6. 本学科の学修に必要な基礎的な学力・技能とコミュニケーション能力がある人

④ 英語コミュニケーション学科の学習成果

1. 英語によるコミュニケーション能力の向上
2. 国際化が進む現代社会でのさまざまな問題に適切に対応できる思考力、判断力、表現力の獲得
3. 社会において多様な人々と主体的に協働することができる態度や力の獲得

3. 現代教養学科

①ディプロマ・ポリシー

現代教養学科は、所定の単位を取得して下記に示す力を修得した学生に対し、時代や社会環境の変化に対して的確に対応し、自立した人間であると同時に社会と調和しながら、自信を持って自己実現を続けていくことができる人間であることを認定し、短期大学士(現代教養)の学位を授与する。

GDP 1. 幅広い分野にわたる知識を身につけ、より広い視野に立って、物事を考えていくことができる思考力

GDP 2. 問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる行動力

GDP 3. 他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていけるコミュニケーション力

②カリキュラム・ポリシー

社会の変化に的確に対応しながら、より良い未来へ向うためには、つねに社会との関係の中で問題をとらえ、考えていくことができる力を養わなければなりません。このような「現代を創造的に生き抜く英知」を育てることが名古屋短期大学現代教養学科の教育目標です。

- GCP 1. 基礎教養科目群では、短期大学で学ぶための基礎を身につけ、自ら考え、発表する場を用意し、そこで得たものをまとめる力を養う。これらは社会で必要とされる思考力・判断力・表現力、および主体性・協調性などを育成することを主眼とするため、必修科目とする。
- GCP 2. 専門教養科目群では、大きく変貌を遂げる現代社会を力強く生き抜くために身につけなければならない専門的な知識や技能を学び、資格取得や卒業後の進路選択に活かすことができる力を身につける。
- GCP 3. 学外で多くの人々と交流しながら主体的に自らの人間的な可能性を切り開くとともに、実践的な知識や技能、経験を得るために、各種のインターンシップや「国内研修」「海外研修」などの「学外研修」をおく。
- GCP 4. 企業、病院、ホテルなどの職場で必要とされる技能に関わる資格・検定を取得するために、基礎となる科目をおく。
- GCP 5. 全ての科目において、社会人として必要とされる力を身につけるためのアクティブラーニングの機会を設けるようにする。

③アドミッション・ポリシー

名古屋短期大学現代教養学科は、多様化する時代の中で、「自分らしく生きていく力」を身につける学科です。働くために必要な知識や資格を身につけ、生涯を通じて自分の力を発揮できる能力を養います。

【現代教養学科の求める学生像】

- GAP 1. 自分の中に眠っている可能性を見つけ出したい人
- GAP 2. 新しいこと、いろいろなことにチャレンジしたい人
- GAP 3. しっかりと就職して働きたい人
- GAP 4. 充実した2年間を送りたい人
- GAP 5. 自ら考え、行動することをめざす人

<現代教養学科の学習成果>

1. 身につけた幅広い知識と技能を活かし、自己を成長させることができる。
(知識・技能)
2. 状況を把握し、課題を解決するために自主的、主体的に取り組むことができる。
(思考力・判断力・表現力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)
3. 他の人々と協働しながら、社会に貢献することができる。(思考力・判断力・表現力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)

4. 名古屋短期大学専攻科

(1) 保育専攻

①ディプロマ・ポリシー

人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度な専門性をもった保育者の養成を目指して、次の知識・技能・態度を修得した者に修了を認定し、さらに所定の単位を修得し、大学改革支援・学位授与機構の審査を経ることで学士（教育学）の学位が授与される。

1. 保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を有し、自己実現を成し遂げながら、人類の福祉と子どもの最善の利益のために積極的に社会に参加し、国際的な課題や地域的な課題解決能力を有する。（国際的・地域的な問題解決能力を有する者）

※両タイプ共通ポリシー

2. 保育と子育てに関する高度な専門的知識と実践的スキルを修得するとともに、将来にわたり保育学に興味・関心を持ち続け、多様なニーズに対応しながら個人のもつ特有の能力を最大限に高めた専門性を有する。（多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家）

※国内タイプ優先ポリシー

3. 国際的な視野をもち、子どもの教育・福祉・心理・文化の分野など多面的かつ深い理解を有する者として、グローバル化に対応したリーダーシップを発揮し、社会的発展に貢献することができる。（国際的な視野でグローバル化に対応したリーダーシップを発揮できる者）

※留学タイプ優先ポリシー

②カリキュラム・ポリシー

人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度な専門性をもった保育者の養成を目指して、キャリア教育に基づき、次の点を重視して教育課程を編成しています。

1. 多様な学習要求をもった学生の自己実現の課題に応え、能動的で自己啓発的な学習主体として、豊かな問題発見・解決能力と社会参加の意識を高くもつ、高度な専門性をもった保育者を養成します。 ※両タイプ共通ポリシー（高度な保育者の専門性）

2. 高度の専門性を備え、急速に変化する現代的な課題に多様性をもって応えられる保育者を養成します。 ※国内タイプ優先ポリシー（多様性と自己解決の能力）

3. 保育の実践と理論を通して、国際社会の要請に応えつつ保育の社会的発展に貢献できる保育者を養成します。 ※留学タイプ優先ポリシー（国際的な能力）

③アドミッションポリシー

保育に関する教育・研究を通して保育者をめざす学生の高度な専門性の修得と自己実現を支援し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献し、社会に出た後も持続的に学び続け、リカレント教育を含めて自身の能力や可能性を広げることができる保育者を養成することを目指しています。

1. 理論と実践を探求する高度な専門性を身につけた保育者になりたいという強い意志をもち、学士（教育学）の学位取得を目指す人 ※両タイプ共通ポリシー（高度な保育

者の専門性)

2. 常に変革する社会情勢に柔軟に対応し、多様化する社会のニーズに対して、個人の能力と可能性を開花させ、自ら問題を解決することができる人 ※国内タイプ優先ポリシー（多様性と自己解決の能力）

3. 急速に進むグローバル化や高度情報化に対応できる力を持ち、国際的に活躍できる人

※留学タイプ優先ポリシー（国際的な能力）

（2）英語専攻

①アドミッション・ポリシー

短期大学士の学位あるいは同等の科目等の履修単位を保有する者で、国際化する社会で他者と協同して活躍するための素地となる実用的な英語運用能力を高める意欲を持ち、また、英語圏の文学や、英語の言語としての特徴を積極的に学ぶ思考力、判断力、表現力を備える女性。

②カリキュラム・ポリシー

名古屋短期大学英語コミュニケーション学科のカリキュラムを基盤に学びを深化させ、英語学、英米文学、それらの応用分野、ならびに世界の各地域の事情や国際関係分野の各科目を偏りなく修得することを目標とし、これらの分野への知識を深める講義科目と、それらの知識を独自の課題に適用して考究する能力を養う演習科目、ならびに英語運用能力を高めるための語学演習科目をカリキュラムの柱とする。これらの評価に際しては、講義科目は知識の修得を多面的に評価する。演習科目についてはそれぞれの専門分野の知識に基づく考察力と発表能力を評価する。英語の実用的な運用能力については技能別に評価する。さらに、学位授与機構の認定科目を配当したカリキュラムで、学位申請の道を開く。

③ディプロマ・ポリシー

短期大学士あるいは同等の履修単位保有を前提に、英米文学、英語学とその応用分野、世界の各地域の国や機関と歴史文化、ならびに国際関係の各分野の科目を履修し専門的な知識を得るとともに、問題を調査し考究した上で結論を出す能力、およびそれを発表する能力を身につけた者に修了を認定する。これらの修了方針に加え、学位授与機構の審査を経て同機構から学士の学位を受ける道を開く目的で、同機構の認定科目を開講し卒業研究課題の指導を行う。同認定科目を履修し、卒業研究課題を同機構に提出の上最終試験を受験し合格した者には、修了を認定すると同時に同機構から学位が授与される。

【脚注】

①学位授与の方針（ディプロマポリシー:DP）

「学位授与の方針」とは、卒業までにどのような能力や態度を身につければ、卒業を認定し学位を授与するのかという方針を定めたものである。

②教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー:CP）

「教育課程編成・実施の方針」とは、「学位授与の方針」を達成するために、どのようなカリキュラムを編成し、実施していくのかという方針を定めたものである。

③入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー:AP）

「入学者受け入れの方針」とは、どのような学生を求めているかを示している。

④学習成果

学習成果とは、学生が獲得すべきもの（何ができるようになるか）を定義することであり、その学習成果はデータとして測定可能でなければならない。

（なお測定可能になった学習成果を短期大学自身の基準によって判定することが査定（アセスメント）という行為である。この査定の中で、学習成果が獲得されたこと、あるいは向上していることを測定結果として示すこと、すなわち「学習成果の可視化」によって改善の課題と方針、計画を策定し、実行することになる）。

⑤学力の3要素

(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力、(3)主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)